



夢の本棚

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀予
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp



【活動方針】①絵本の楽しさを伝える <親子読書の奨励> ②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える <絵本文化の研究>
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える <絵本文化の継承>

世界に絵本を求めて③

自然や生活の中に豊かな言葉がある

ものを自分の目で見る

◆現在、映像に取り囲まれた生活の中に子どもたちはおりますけれど、今の子どもたちにとり、一番考えやらないのは、「ものを自分たちの目で見る」ということ、見せられるんじゃない、自分の目で見るということ、そのことを考えていた方がいい。◆そのため、自然とか生活だとか、子どもたちがどのくらいしっかり見てるかどうかが、今日なんかは、ほんとにいいお天気です。空がどん



なに青なにかってこと見えます。子



どもたちは、空の青さを知っていますかね。日によって違う。朝から晩まで空がどんなに変化するか、知ってますか。家の中で見てるでしょう。意外に見てないんです。それを子どもたちが自然を見るようになった時に、緑が春夏秋冬でどれだけ変わっていくか、山がどんなふうに変化していくか、そういったことも非常に大切です。

雨の降り方にも豊かな表現

◆私はいつも考えますけれども、雨の降り方、子どもは知っていますかね。日本語では、雨の降り方をほんとに豊かに表現しますでしょ。「びしょびしょ」とか「しとしと」とか「ぱらぱら」とかものすごく多いです。今の子どもたちは、言い分けられませんでしょうか。実

絹ごしの雨が降ってる

◆私は、今でも思い出し、小学校の2年の時だったと思います。梅雨の時、廊下で座ってガラス窓越しに、庭に雨が降っ



ているのを見ていました。霧雨で見えるか見えないかの雨だった。◆そしたら、母親が私の頭越しに「あ、絹ごしの雨が降ってるね」と言っていたんです。私はびしょびしょになりました。「絹ごし」というのが全然分かりませんでした。何故かというところ、私の家では、木綿の豆腐だからです。ところが、ピーンとききました。意味が分からないけれど、絹ごしの雨というニュアンスと、そういう表現の仕方が似ているのとぴたっと合ったんです。私は「絹ごし」という言葉をそこで覚えたんです。

辞書にも用例がない

◆「絹ごしの雨」という言い方は、珍しい言い方だったらしいですけれども、私が編集部で仕事をしている時に、ある先生の愛弟子のお嬢さんがいたのでその話をしたら、彼女早速、先生の所へ飛んで行って「こういう表現があるんですよ」と言っていたんです。で、辞書を引いてみても「絹ごしの雨」という用例はないんです。今はあると思うんですが、その時先生は「ああ、そらいいね」とおっしゃったって言うんです。その後、私に言いに来てくれました。「先生が感心してらっしゃいましたよ」と◆今でも私は、絹ごしの豆腐を見ると「絹ごしの雨」って思い出しますし、思うと、母親まで思い出されてくる。ですから、私たちの周囲に転がっているいろんな自然や生活の中に、とてもとても豊かな言葉がある。そういうことを考えますと面白いです。

